佐賀の林業

No.626
2009 秋号

平成21年11月１日発行●四半期１回発行●第626号

県産木材利用施設　佐賀市富士町「森の香　菖蒲ご膳」　平成21年３月　竣工

目次

みんなの林政　「県産木材の流通・加工システムづくり」について ……2
佐賀県森林整備加速化・林業再生事業がスタートします ……3
普及だより　地域の森林資源を活用！　人とのつながりへ！ ……4
伊万里西松浦森林業再生プロジェクトの取り組みについて ……5
人物紹介　佐賀市　栗原大次郎さん ……6
トピックス　悲願の甲子園出場（伊万里農林高等学校） ……7
木づかいスクールを開催しました ……8
林業試験場だより　シイタケ害虫に注意 ……9
現場の顔　「富士大和森林組合　山口浩和さん」……10
「鹿島嬉野森林組合　山口洋平さん」……10
頑張っています林業研究グループ「富士町林業研究会」…… 11
表彰者の紹介 ……11
行事のお知らせ ……11
佐賀の木材市況：平成21年７月～９月 ……12
表紙の紹介 ……12
編集後記 ……12

※ さがのよか木を応援する「よかウッド」へは、http://www.yoka-wood.jp へアクセスしてください。

みんなの林政

「県産木材の流通・加工システムづくり」について ～県産木材利用推進プロジェクト～

はじめに

本県では、森林の持つ公益的機能の持続的発揮に必要な森林資源の循環利用を推進するため、平成19年度から県民協働による「県産木材利用推進プロジェクト」に取り組んでいます。

今回は、その中の「県産木材の流通・加工システムづくり」について御紹介いたします。

これまでの取組状況

県では、他県産材とも競争できる県産人工乾燥木材（含水率20％以下）の生産を目指し、生産体制づくりや木材の乾燥工程などの技術確立に取り組んできました。

乾燥木材の生産体制づくりでは、県内の中小製材工場が木材乾燥施設を保有していない状況を踏まえて、佐賀県木材協会が中心となり、県内の製材工場（20社）が中国木材株式会社伊万里事業所の大型乾燥施設（50㎥釜等）を共同利用し、人工乾燥木材を生産する仕組みとその体制づくりを行うとともに、そこから生産される県産乾燥木材の認証制度を創設しました。

（県産人工乾燥木材の生産状況）

また、木材の乾燥工程については、林業試験場が５箇年かけて研究を行ってきた木材乾燥スケジュール（温度や湿度調整、乾燥時間など）をもとに、平成19年度において実際に使用する乾燥施設（15㎥、50㎥）を使って県産木材の試験運用を行い、共同乾燥の基本スケジュールを調整のうえ、品質の安定した乾燥木材の生産に取り組んでいます。

（でき上がった製材品）

取組に当たっての課題と対応

県産乾燥木材は平成19年度に140㎥、平成20年度に430㎥が生産されました。430㎥のほとんどは柱材であり、柱の本数にすると約１万本にもなります。一般的に木造住宅で使われる柱の本数は60～80本といわれていますので、木造住宅の120～160戸分の柱材が１年間に生産されたことになります。しかし、未乾燥木材と比べて1.5倍程度高くなる乾燥木材を大工・工務店に安定的に販売していくのはなかなか大変です。

県内でも景気の低迷により、平成21年１月以降の住宅着工数は、平成20年に比べて30％以上も減少していることや円高の影響で欧州材（集成材）の輸入価格が低下したことなどから国産材の需要が大幅に落ち込んでおり、県産木材の生産に取り組んでいる製材工場などにとっては正念場となっています。

このため県では、ふるさと雇用再生特別基金を活用して佐賀県木材協会に「県産木材利用推進プランナー」を配置し、製材工場と実需者である大工・工務店の橋渡しを開始したところであり、今後の消費拡大に期待を寄せています。

おわりに

県産木材の「流通・加工システムづくり」は、景気の影響を受け、厳しい状況となっていますが、林業・木材産業の活性化と健全な森林の整備を推進するため、新たな取組を検討し、県産木材の利用拡大を図っていきたいと考えています。

（林業課　林産振興担当）

みんなの林政

佐賀県森林整備加速化・林業再生事業がスタートします！

近年、地球温暖化防止に向け、森林の果たす役割はますます重要となっており、国では森林吸収目標の達成に向けた取り組みとして、平成24年度までに330万haの間伐を実施することとしており、その取組の一環として今年度から森林整備加速化・林業再生事業がスタートします。

これは、従来の間伐事業に加え、森林所有者が高齢となり整備の進まない森林や、作業条件が劣る奥地森林の整備を森林組合等が森林所有者に代わって行うことにより、森林の持つ多面的機能の持続的発揮を図ることを目的とした事業です。

〈対象とする森林〉

①私有林（齢級制限なし）
②原則として環境林、保安林以外の森林
③おおむね10年間未整備で地理及び人的な条件が不利な森林
※（地理及び人的な条件が不利な森林）
(ア) 民家や河川等に直近し、手入れがされてない森林
(イ) 林分状況として、急傾斜である、長期間放置され粗悪な森林
(ウ) 到達路網がなく、アクセスが悪い森林
(エ) 森林所有者が高齢で、森林整備への自己負担分の捻出が困難な森林
(オ) 不在村で適正な管理が行われていない森林など
④市町が作成する特定間伐等促進計画に記載された森林

〈事業期間〉

Ｈ21年～23年

〈採択基準〉

①間伐施業地は0.1ha以上であること。
②間伐率が概ね30%以上であること。

〈条　件〉

①事業実施完了後、10年間は皆伐及び森林以外の用途変更を行わないこと。
②森林所有者は事業実施主体と事業実施に関する協定書を交わすこと。

〈事業実施主体〉

森林組合など

〈負担金〉

原則として森林所有者のご負担は伴いません。

問い合わせ先：農林事務所林務課、各市町林務担当課、各森林組合

（林業課　間伐造林担当）

普及だより

地域の森林資源を活用！　人とのつながりへ！ ～唐津南高校生の活動～

８月２日（日）、唐津市西の浜海水浴場で唐津湾イカダ大会が開催され、唐津農林事務所を代表して林務課職員６名が竹でイカダを製作して大会に参加したので紹介します！……というコーナーではありません。

このイカダ大会に参加した理由には、唐津南高校生達の活動が一つのきっかけでしたので、その活動を紹介します。

イカダ大会の応援に駆けつけた高校生達

〈高校生達の活動とは〉

唐津南高校 生産技術科３年生５名で構成する生物活用研究班（フラワーアレンジャー）は、３年前から花を通した地域交流を中心に活動されています。２代目の高校生達は、先輩達の地域交流の活動をしっかり受け継いでおり、今年度から「竹炭の活用と地域交流」を新たなテーマとして活動されています。

地域の方々への講座（学校にて）

地域の方々への講座（公民館にて）

〈侵入竹林で伐採された竹が竹炭へ、そして地域へ〉

高校生達は、学校裏山の竹を伐採したり、ドラム缶釜の製作から竹炭づくり、そして地域交流等の活動が軌道に乗りはじめた頃、県内や唐津市内の竹林の現状を知るため、唐津農林事務所に来所されました。竹炭づくりは何かと大変ですが、高校生達から「最も大変なのは竹の伐採など材料の準備です」と聞き、今年度から始まった侵入竹林等緊急整備事業で伐採された竹を活用してもらえればと、管内の森林組合を紹介しました。

森林組合から竹の提供を受けた後、高校生達の頑張りに、私達職員でも何か役に立てることはないものかと考えた結果、冒頭で紹介したイカダ大会に参加することでした。大会終了後には、竹のイカダから竹炭へ、そして地域の皆さんへとつながっていただければとの思いを込め大会参加と竹の提供を考えました。

伐採された竹を取りに行く高校生

竹炭づくりをする高校生

高校生達の活動は、８月、宮崎県で開催された日本農業クラブ九州地区大会で発表され、文化・生活部門で２位の成績を収められました。生徒の皆さんによると、この活動を通し、地域とのつながりを深めることができたことが大変よかったとのことでした。

地域の方へお届け

竹炭・器にならなかったものもアレンジ

〈高校生の発表要旨を抜粋〉

買えば何にでも手に入る時代です。でも、この活動を通して、人と人の心のつながりは時間をかけて、心を込めて築いていくものだと学んでいます。そして、身近にある地域の風土を知り、自然の資源に価値を見出していきたいと思っています。

こういう時代だからこそ、自然と共存し、人と人とのつながりへと活かすことで、魅力ある地域づくりをし、また、地域の未来へつながるようなチャレンジを続けていきたいと思っています。

〈終わりに〉

来春、３年生は卒業していきますが、後輩達へとしっかりと引継ぎ、卒業後も沢山のチャレンジを続けてもらえることを期待します。

唐津農林事務所林務課（愛（あい）・竹（ちく）り～む・かぐや号乗組員一同）

普及だより

伊万里西松浦森林業再生プロジェクトの取り組みについて

○プロジェクトの概要

伊万里農林事務所では、平成18年度より森林組合、市町、農林事務所の３者が一体となって、管内の森林整備を計画的に進め、森林・林業を再生することを目的に「伊万里西松浦森林業再生プロジェクト」を立ち上げました。

プロジェクトでは、管内を５つに分けて、重点推進地区を定め、５年で一巡するフィールドローテーションによる間伐を推進しており、中でも特に、提案型集約施業による利用間伐と森林所有者への収入還元に力を入れて取り組んでいます。

プロジェクトに取り組む以前は、間伐の９割が切り捨てという状態でしたが、関係機関や森林所有者のご協力の下、昨年度までの３年間で、私有林において計11箇所の利用間伐団地（面積：43ha、森林所有者総数：38名）を設定することができました。

取り組み４年目となる今年度につきましても、８箇所の利用間伐団地（面積：約20ha）を設定する予定になっており、着実にプロジェクトの成果が築かれつつあります。

（利用間伐後の林分）

○山の何でも相談窓口の開設

プロジェクトを円滑に進めるために、その年度の重点推進地区となった公民館において、「山の何でも相談窓口」を開設するようにしています。相談窓口では、森林所有者の方を対象に、航空写真等による所有林の位置確認、森林整備の作業依頼、保安林や経営相談など、山に関する相談を何でも受け付けるようにしています。今年度も南波多町、黒川町、有田町の３カ所で相談窓口を開設し、61名の方が相談に来られました。相談が多かったのは、「自力では作業ができないので組合に作業を依頼したい」とか、「作業の見積をお願いしたい」等の森林組合への作業委託に関するもので、全体の７割強を占めていました。

（山の何でも相談窓口）

○林業普及指導員九州ブロックシンポジウムで小山主査が最優秀賞を受賞

先日、長崎市で開催された林野庁主催の標記シンポジウムにおいて、佐賀県代表として当事務所の小山主査が、これまでのプロジェクトの取り組みについて発表したところ、最優秀賞を受賞しました。小山主査は、11月に開催される全国大会において九州代表として発表することになっています。更なるご健闘を期待します。

（最優秀賞の受賞風景）

今後も、関係機関や森林所有者の方々と連携を密にし、プロジェクトの推進を図っていきたいと思います。

（伊万里農林事務所林務課普及担当）

人物紹介　佐賀市　栗原大次郎さん（53）

佐賀市三瀬村在住の栗原 大次郎さんを紹介します。

栗原さんは、30年以上に亘り林業に従事されてこられました。

林業技士、林業架線作業主任者等の資格を取得され、平成17年には県内11人目の指導林家に認定されるほか、平成19年には、安全管理指導専門家に林野庁から認定を受けられています。

また、平成21年４月には、自身が代表理事を勤めておられた（旧）東部林業事業協同組合を東部林業株式会社への組織変更に尽力されるなど実績をあげられ、地域林業の発展に貢献されてこられました。

【指導林家として】

指導林家として５年目を迎えられた現在は、各種研修等により、森林施業技術の普及、指導に取り組まれるほか、各種コンクール等の審査員、また、自身が所属する「三瀬森の会」でも指導林家として林業後継者の育成に取り組まれるなど、幅広く活動されています。

【安全管理指導専門家として】

林業事業者に対する実践的な安全指導を行うスペシャリストとして、林野庁より認定を受けられており、伐木作業者安全衛生特別教育講習を始め、安全衛生指導員研修、刈払機取扱作業者安全衛生教育講習などにおいて講師を務められるなど、地域の労働安全の向上に向けて活動されています。

また、自身の会社においても徹底した労働安全対策に取り組まれています。

特筆すべき点としては、「ヒヤリ・ハット日報」の取り組みで、これは以前発生した事故をきっかけにその対策として考案されました。

その日に起きた「ヒヤリ・ハット」をその日のうちに報告し、作業員がお互いに注意力を高め合い、労働災害の未然防止に役立てています。

このような取り組みが行われている一方で、県内における昨年の林業労働災害件数は24件発生し、うち１件は死亡災害となっています。

また、今年は既に２件の死亡災害が発生するなど、労働安全対策への更なる取り組みの強化が求められています。

氏は、「林業における労働環境は厳しいものがありますが、まだまだ改善は図れると思います。今後も労働安全に対する指導、情報の発信に努めていきたい。」と話されていました。

（作業前のミーティング状況）

【経営者として】

木材価格の低迷が続く中、低コスト作業システムにも力を入れられており、低コスト作業路の作設、列状間伐への取り組みによる生産性の向上、コストの削減、労働安全の確保について実現されています。

氏は、「林業を取巻く状況は引き続き厳しいものがあるが、更なるコストの削減（意識の向上）と労働安全確保の両立を図ることで、事業量を確保し、従業員やその家族の生活の安定を守っていかなければならない。」と話されていました。

最後に、お話を伺って、何事にも前向きな姿勢、強い責任感、自然の中で培われた温かい人柄を感じることができました。

これからも、林業界の牽引者として、更なるご活躍を期待します。

（佐賀中部農林事務所 林務課 普及担当）

トピックス　悲願の甲子園出場 ～伊万里農林高校野球部の活躍～

今年、本校野球部は創部60年目にして、第91回全国高校野球選手権大会に出場することができました。これもひとえに皆様方の心温まるご声援の賜と心より感謝いたしております。

去る７月28日、本校は、みどりの森県営球場で佐賀商業高校と県大会の決勝を戦い、延長10回の末劇的な逆転サヨナラで、悲願の甲子園 行きの切符を手にしました。全校生徒や保護者、卒業生さらに伊万里市民の応援を背に受け、野球部の大坪監督の指揮の下、生徒諸君の健闘が光りました。

この先発メンバー全員が森林工学科の生徒で３年生６名、２年生２名、１年生１名という構成です。森林工学科では、１年生は全員同じ授業を履修しますが、２年生になると希望により林業コースか土木コースのどちらかを選択するようになっています。今回のメンバーでは１番バッターの久重路君が土木コースで、２・３年生の残り７名は林業コースで学んでいます。

本校の森林工学科では、腰岳演習林実習があり、学年ごとに年７～８回実施しています。内容は１年生のオリエンテーションを皮切りに、枝打ち・下刈り・間伐・集運材・植林などです。生徒たちがこの中で一番辛いと感じる実習は、夏の炎天下の下刈り実習です。しかし、これが忍耐力を身につけます。また、集運材実習では、伐採してある木を玉切りし、目的の場所まで運びますので、パワーが身につきます。１年生の頃の華奢な身体つきは、３年生になる頃には逞しくなります。

（野外テーブル作成中）

こうして、いろんな実習に取り組むことで、チームワークや仲間との信頼が生まれます。気を抜くと実習は、けがに繋がりかねないので、集中力は欠かせません。

これらのことが、きつい練習にも耐えられる原動力となって、今回大きく花開いたのではないでしょうか？

（思い出の甲子園）

それでは、先発メンバー順に選手の紹介をしたいと思います。

（・打順・氏名①学年・コース　②好きな教科　③甲子園に出場して）

- **１番　久重路　祐貴**(くじゅうろ　ゆうき)
  ①３年・土木コース　②土木施工
  ③みんなと甲子園でプレーできて最高の思い出になりました。
- **２番　岩政　涼太**(いわまさ　りょうた)
  ①３年・林業コース　②林産加工
  ③甲子園は楽しかったです。
- **３番　久保田　優希**(くぼた　ゆうき)
  ①２年・林業コース　②林産加工
  ③また甲子園に行き、やり残したことを成し遂げたい。
- **４番　吉永　圭太**(よしなが　けいた)
  ①３年・林業コース　②林産加工
  ③甲子園で終わることができ最高でした。
- **５番　川原　僚二**(かわはら　りょうじ)
  ①３年・林業コース　②林産加工
  ③甲子園でプレーでき凄く良かったです。
- **６番　田中　俊**(たなか　しゅん)
  ①３年・林業コース　②林産加工
  ③良い場所だった。
- **７番　吉富　貴哉**(よしどみ　たかや)
  ①３年・林業コース　②林産加工
  ③甲子園で終わることができ最高でした。
- **８番　松岡　一亨**(まつおか　かずあき)
  ①１年森林工学科　②環境科学基礎
  ③また甲子園に出場したい。
- **９番　清田　悠也**(きよた　ゆうや)
  ①２年・林業コース　②林産加工
  ③自分たちを大きくさせてくれた所です。
- **前田　伸也**（まえだ　しんや）３年林業コース
  ③甲子園に行けて良かった。

（佐賀県立伊万里農林高等学校　教諭　松本　寛）

トピックス　木づかいスクールを開催しました。～「木育」の推進に向けて～

はじめに

「みんなの林政」のコーナーでも説明しました「県産木材利用推進プロジェクト」の一環として、佐賀県木材青壮年会との協働により、８月に佐賀市内のショッピングセンターで「木づかいスクール」を開催しました。

「木づかいスクール」では、「木育講演会」の開催と、「木のふれあいひろば」や「ふれあい木工教室」のコーナーを設置しました。

【木育講演会】

日本の木工教育・研究の第一人者である島根大学教育学部の山下晃功教授をお迎えして講演会を開催しました。

「木づかいで元気森・森　木育で人間活き・活木」をテーマに、木育とはなにか、木育がなぜ教育に適しているのか、木育の活動事例などについて大変わかりやすくご講演いただきました。

（山下教授による楽しい講演）

「木育」とは、市民や児童の木材に対する親しみや木の文化への理解を深めるため、材料としての木材の良さやその利用の意義を学ぶ教育活動のことを言います。

「木育」という一般の方にはあまり聞き慣れないテーマではありましたが、多くの方が聴講に来られ、熱心に耳を傾けていました。「木育」の考えを通して「木をつかうこと」の意義について理解を深めてもらったと思います。

【ふれあい木工教室】

県内小中学生とその保護者を対象として、屋外に特設会場を設置して行った木工教室では、親子で仲良く木工工作にチャレンジしました。

慣れない木の加工にてこずりながらも、スタッフのアドバイスを受けて、少しずつノコギリやカナヅチの使い方を覚え、作品が完成したときには、親子ともに喜んでいました。

木工教室をとおして木とふれあい、木の温もりを親子で感じることができたのではないでしょうか。

（長いす作りに挑戦）

【木のふれあいひろば】

木のふれあいひろばでは、木工教室に参加できない小さい子どもも楽しめるように、だれでも簡単に自由に作れるような「木のシールづくり体験コーナー」と「積み木コーナー」を設置しました。

木のシールづくりでは、スタッフと一緒にかんながけを体験し、そこから出るかんなくずに絵を描いて、シールづくりに夢中になっていました。

おわりに

佐賀県ではこれからも、人と自然のつながりを大切にし、より多くの方に木とふれあい、木に学び、木と生きる活動「木育」の理解増進を進め、森林資源の循環利用の重要性を伝えていきたいと考えています。

（森林資源の循環利用のイメージ）

（林業課　林産振興担当）

林業試験場だより

シイタケ害虫に注意

【現状】

木材価格の低迷が続き、木材による収入に多くを望めない今日、林家の収入源として、キノコによる収入は以前にも増して重要になってきていると思います。

食の地産地消が推進されている中、県内のシイタケ産地では、学校給食用に県産乾しシイタケが生産されています。安定した量と価格で県産の乾しシイタケが需要の大きい学校給食用として供給できることで、収入が安定し、林家の家計に大きく寄与しています。

今、学校給食用に納入された乾しシイタケに害虫が混入していて返品される事例が発生しています。

輸入シイタケの農薬残留問題から、消費者から国産のシイタケが見直され、市場価格が好転しているなかで、県産シイタケには害虫が入っているとの風評が蔓延したら、県産シイタケのイメージダウンに繋がり、県産のシイタケ市場価格に重大な影響を及ぼすのではないかと懸念されます。

【調査結果】

そこで、この害虫について調べたところ、この害虫は、「シイタケオオヒロズコガ」類の蛾の幼虫（写真－１、長さ１㎝程度）であることがわかりました。この蛾はホダ木やホダ場の土中に産卵するといわれていますが、その詳しい生態は未だはっきりとはわかっていません。

昨年、害菌調査を行った県内８箇所のホダ場では、その内５箇所でこの害虫の被害が見られました。

そこで、県内のホダ場で実際にどのような時期にどの程度発生しているか今年の５月から調査を開始しました。

その結果、調査した２箇所のホダ場でこの害虫が確認され、ホダ木の被害率も多いところでは100％の被害が確認されました。

害虫の発生時期については、図－１のとおり６月末に発生のピークがあり、９月末現在も増加傾向にある為、今後、もう一つのピークが来るのではないかと注意しながら調査を続けています。

【防除法】

防除法としては

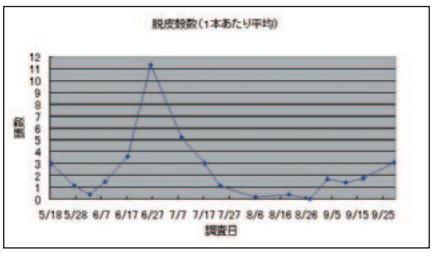
- ホダ場の風通しを良くし、加湿にならないようにする
- 新ホダ木を被害ホダ木の近くに置かない
- 防虫ネット（２㎜目）を成虫の出現する期間設置し、産卵を防止すること

などが考えられます。

今後、ホダ場の環境改善ばかりでなく、発光ダイオード灯による成虫捕殺や、産卵防止のためのネット被覆、ホダ場土中への産卵を防止するための石灰散布・マルチシート被覆の効果等について、試験を行う予定です。

また、シイタケ用に登録された農薬もありますので、この効果についても検証してみたいと考えています。

写真－１　シイタケオオヒロズコガの幼虫



図－１　シイタケオオヒロズコガの発生時期

（林業試験場　研究開発担当）

現場の顔　若い力で地元の山を守っています。

富士大和森林組合　山口浩和さん（29）

私は、富士大和森林組合で働き始めて、今年で９年目になります。

なぜ、森林組合に入って山の仕事を始めたかといいますと、当時、私は努めていた仕事を辞め半年ほど経った頃、「何かしないといけない」と日々考えていました。

その時、地元（富士町）の先輩に「一緒に山で働いてみないか」と誘われ、富士大和森林組合に飛び込み、現在に至っています。

当時、私は、組合に入ったものの、刈払い機やチェーンソーを使った経験がなく、はじめは恐怖心もありました。

また、何よりも「なんてきつい仕事なんだ」という思いと同時に、これから続けていけるのかという不安を抱いたものです。

しかし、続けていくうちに、自然に囲まれ間伐や下刈をした山がきれいになっていくのを見て、「あぁ～なんていい仕事なんだ」と思うようになりました。

この仕事は危険も多く大変ですが、その分やり甲斐も大きい仕事であると感じています。

これからも頑張っていきたいです。

（普及指導員より）

山口さんは、平成19年度に林業作業士研修を受講され、架線作業・はい作業・クレーン運転等の資格・免許を取得するなど、積極的に自己研鑽に努められており、現在は、作業班長として、荒廃森林再生事業等の間伐作業を受け持つなど、日々頑張っておられます。

今後、山口さんの益々のご活躍に期待しています。

（佐賀中部農林事務所　林務課　普及担当）

鹿島嬉野森林組合　山口洋平さん（28）

鹿島嬉野森林組合で活躍されている山口洋平さんを紹介します。

山口さんは、森林組合に採用されて初めて林業の仕事を経験されたそうで、「ここ（鹿島嬉野森林組合）で働くこととなったきっかけは、友達にさそわれたから。」と平成15年に組合に転職してから今年で６年目です。

最初の１年目は、先輩から指示を受けながら危険の少ない業務に従事していましたが、昨年、佐賀南部林政協議会が主催して開催された「伐採技術コンクール」に組合の代表として推薦され、優秀賞を受賞されるなど、これまで地道に取り組んできた伐採技術は、同僚からも一目置かれています。

来年は、「林業作業士研修」を受講される予定で、各種資格の取得により山仕事の幅が広がることが期待されています。「先輩がいるから自分の出番はありませんが、架線の張り方の勉強をしたい。」と研修の意欲を語っていただきました。

今後の抱負として、「早く一人前になりたい。」と謙虚さを忘れず、さらなる技術の向上を目指しています。

「山の仕事はきついけれど、時間の都合がつくからいいですよ。」と時間的なゆとりと友達との絆を大切にする山口さんは、結婚そして子供の誕生、仲間と楽しむサッカーと充実した毎日をすごされ、「仕事にますます力が入って成長している。」と上司からも高い評価を受けています。

今後も林業担い手として、そして「鹿島嬉野森林組合の顔」として活躍されることを期待します。

（鹿島農林事務所　林務課　普及担当）

がんばっています林業研究グループ

富士町林業研究会

富士町林業研究会は、平成元年４月に会が発足してから今年で20年目となります。

会員は、会長の川原嘉信さんをはじめとした30名で、会員の職種はサラリーマンから事業主、農林家など様々な職業の方からなり、富士町の山を純粋に愛する思いで集まっているグループです。佐賀市富士町の森林整備推進活動や林業技術の研修活動に励んでいます。

富士町林業研究会では、間伐の実技研修や先進地視察研修を行ったり、木材の有効利用を考え造材時に発生する「元ばね」を使った木製ベンチを作成し、地元の公共施設に提供したりする活動を行ってきました。

平成18年から３ヶ年に亘り、吸収源対策森林施業推進活動緊急支援事業に取り組みました。低コスト間伐研修会の開催、講演会の開催、集落集会へ入っての森林整備推進の活動を行い、森林所有者に森林整備の意欲喚起と新しい林業の展開について啓発普及を行いました。

この事業をきっかけとして、今も地域に根ざした森林整備推進活動を展開しています。

富士町林業研究会のこれからの活躍に期待します。

（林業課　専門技術員）

表彰者の紹介

10月19日　佐賀県自治会館で、「佐賀県　県民協働宣言　５周年記念の集い」が開催され、これまで県とCSOとの協働実践を積み重ね県民協働を推進してきた佐賀県職員の実践者に対してCSOで組織された「協働化テストを考える会」より感謝の意を表して感謝状授与式が執り行われました。

唐津農林事務所　林務課　若宮征喜主査に「元気な企業の森林づくり活動支援事業」などの業務において現場の多様な意見を聞き次の事業展開へ活用する考え方と労を惜しまない県民協働に対する顕著な活動に対し感謝状が送られました。おめでとうございます。

（林業課　専門技術員）

行事のお知らせ

◆こだまの森林づくりシンポジウムを開催します。

と　き／11月14日㈯ 13:00～16:30

ところ／富士生涯学習センター（フォレスタふじ）　主催／佐賀県

○基調講演　「森林ボランティア活動による暮らし再考　～地縁と地縁が結ぶ人・森・まちづくり～」
講師　朝廣和夫（九州大学芸術工学研究院准教授）

○パネルディスカッション　「県民協働による森林（もり）づくりを進めるために」
コーディネーター：五十嵐　勉（佐賀大学農学部准教授）

お問い合わせ先　県土づくり本部　森林整備課　計画調整担当　TEL0952-25-7135

◆よかウッドフェスタを開催します。

と　き／11月15日㈰　ところ／東与賀ふれあい館　主催／佐賀県

○木づかい講演会
第１部　13:40～14:50「望まれる教室空間」　講師　橋田紘洋（愛知教育大学名誉教授）
第２部　15:00～16:10「木とデザインそして建築」　講師　森　豪男（武蔵野美術大学教授）

○木工工作コンクールの展示会・表彰式
小中学生木工工作作品の展示・小中学生木工工作コンクールの表彰式

お問い合わせ先　生産振興部　林業課　林産振興担当　TEL0952-25-7133

佐賀の木材市況（平成21年７月～９月）

区分	樹種	規格・寸法 径(寸法) cm	規格・寸法 長さ m	等級	7月 価格 円／㎥	7月 増減(対前月)	8月 価格 円／㎥	8月 増減(対前月)	9月 価格 円／㎥	9月 増減(対前月)
丸太	スギ	14～16	3	並	8,000	△100	9,300	1,300	9,600	300
		18～22		〃	9,200	100	10,100	900	10,200	100
		24～18		〃	9,700	200	10,300	600	9,900	△400
		30～		〃	11,100	1,200	11,000	△100	11,100	100
		14～16	4	〃	8,000	500	9,000	1,000	9,000	0
		18～22		〃	10,100	400	10,900	800	11,000	100
		24～28		〃	10,800	600	11,600	800	11,500	△100
		30～		〃	15,200	△2,200	13,300	△1,900	12,700	△600
		14～16	6	〃	12,800	2,000	13,200	400	13,800	600
		18～22		〃	13,900	900	14,100	200	14,400	300
		24～28			16,000	△2,000	18,000	2,000	16,000	△2,000
		30～		〃	40,000	15,000	35,000	△5,000	25,000	△10,000
	ヒノキ	14～16	3	〃	11,600	500	13,000	1,400	11,800	△1,200
		18～22		〃	14,300	1,600	15,200	900	13,600	△1,600
		24～28			13,800	△1,900	17,400	3,600	16,000	△1,400
		30～		〃	29,900	－	25,600	△4,300	26,000	400
		14～16	4	〃	15,600	700	18,600	3,000	19,300	700
		18～22		〃	16,200	1,100	19,300	3,100	19,600	300
		24～28		〃	19,800	300	23,800	4,000	21,600	△2,200
		30～		〃	36,500	－	39,000	2,500	34,000	△5,000
		14～16	6	〃	19,100	△5,900	21,100	2,000	23,100	2,000
		18～22		〃	19,300	△4,200	20,800	1,500	24,000	3,200
		24～28			40,000	0	30,000	△10,000	30,000	0
		30～		〃	80,000	0	60,000	△20,000	60,000	0
製材品	スギ	10.5×10.5	3	特1等	30,000	0	26,500	△3,500	26,500	0
		12.0×12.0		〃	30,000	0	26,500	△3,500	26,500	0
		10.5×10.5	4	〃	22,000	0	22,000	0	22,000	0
		12.0×12.0		〃	23,000	0	23,000	0	23,000	0
	ヒノキ	10.5×10.5	3	〃	62,500	0	62,500	0	52,500	△10,000
		12.0×12.0		〃	62,500	0	62,500	0	52,500	△10,000
		10.5×10.5	4	〃	57,500	0	57,500	0	52,500	△5,000
		12.0×12.0		〃	57,500	0	57,500	0	52,500	△5,000

スギ・ヒノキ丸太：佐賀木材㈱、㈱唐津木材市場、㈱伊万里木材市場、佐賀県森林組合連合会共販所の平均価格
スギ・ヒノキ製材品：㈱伊万里木材市場

表紙の紹介

表紙の建物は、佐賀市富士町の「森の香　菖蒲ご膳」です。今年の３月に竣工しました。「森の香　菖蒲ご膳」は、地元の山で採れる山菜や木の実を使った山の幸会席料理のことで、14年前から佐賀市婦人林業研究会が地域興しの活動として始まりました。今年４月にこの施設がオープンし、一般に「森の香　菖蒲ご膳」が提供され、好評を得ています。

地元のスギで建てられており、床、腰板、壁等の内装部材にも地元産のスギが随所に使われています。大きな梁を見せた土間には、ペレットストーブが設置され、訪れた客に優しい温もりを得られるような心遣いが感じられます。食事を取る広間からは、嘉瀬川ダムが完成したあかつきには、ダム湖を中心とした景色を楽しむことができます。また、囲炉裏のある部屋は、土壁の柔らかく暖かみのある色合いとスギの床板の触感と相まって落ち着いた雰囲気を醸し出しています。

（林業課　専門技術員）

佐賀県
http://www.pref.saga.lg.jp/

編集後記

今年の夏は、甲子園で盛り上がりました。佐賀県代表の伊万里農林高等学校は、全国で唯一の農林高校からの出場であり、メンバーの全てが森林工学科出身者であったことから、我々林業関係者はこぞって球児の甲子園での活躍に応援しました。球児のみなさんの学校の山での実習が、チームワークや集中力を養い、きつい練習に耐えられる原動力となり、今回大きく花開いたと思います。

伊万里農林高等学校の甲子園出場は、去年からの不況による林業・林産業の厳しい状況に、明るい希望の光をあててくれました。将来の楽しみな林業後継者の活躍に期待してやみません。

(T.F)

平成21年11月１日発行　編集･発行●〒840-8570 佐賀市城内1丁目1番59号 佐賀県林業課･佐賀県林業改良普及協会